

70期生

1年生学年だより



豊中市立第五中学校 2021年10月26日(火) No.25

識字学習 ~アフリカの義務教育から『識字』について考える~

10月8日(金) 3限

JICAの企画調査員や教育プロジェクトの仕事で、サブサハラ・アフリカに住み、
現地の人たちとの交流や、サブサハラ・アフリカでの義務教育のサポートなど、さ
まざまな経験をされた中田先生に、“アフリカの義務教育から『識字』を考える”
をテーマに話を聞きました。



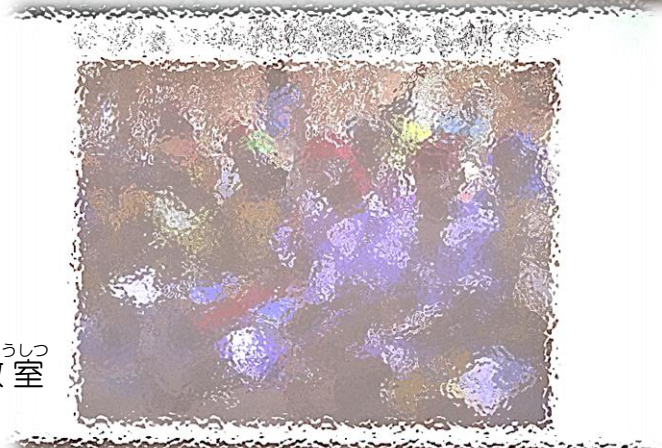
広い青空が見れる！

は
晴れ、ときどき、羊

おも
重い荷物は、あたま
頭の上に。



ニジェール共和国の識字教室



『世界の果ての通学路』より
「象には気をつけるんだぞ！」と、家族に言われて、
学校へ出発する子どもたち



アフリカは
とにかく、暑い
ところ。



笑顔をカメラにむけてくれる…



岩、石、砂ならあるが、
他には何もないサハラ砂漠がある。
石でできた家 か 植物の繊維で編んだ家

とにかく、明るい子どもたち。
学校に行くのに、ゾウやキリンなど野生動物にも会うこと。
舗装された道はなく、砂と石の道を2~3時間も
かけて歩いていく通学路。学校には、電気も水道も
ない。屋根はあるが、風をよける壁も、
机もイスもない。



石の上が冷たいから…
日陰で休む羊



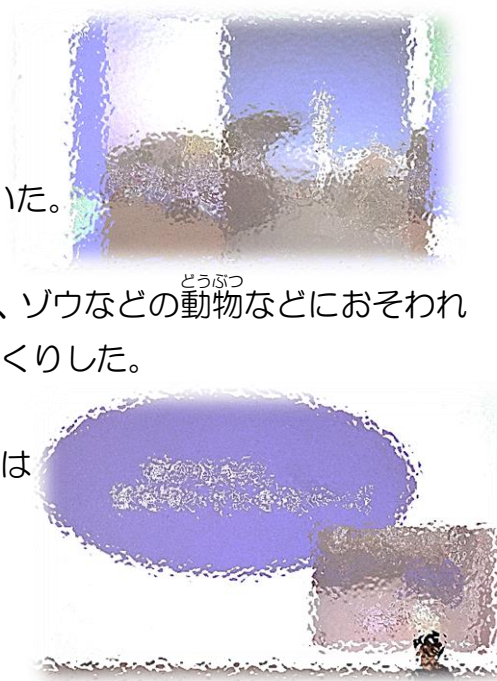
94歳の小学生

◇識字学習をして、感想を書きました

生徒の感想より抜粋

<アフリカの子どもたちについて>

- 毎日、水をくみに行くのは大変だと思った。
- 学習の時、フランス語で学習する事を知り驚いた。
- 遠い距離を毎日歩いているのは知っていたけれど、ゾウなどの動物などにおそわれながら学校に行っていたことを知ってとてもびっくりした。
- 今、学校に当たり前前に来れていることを、外国では当たり前じゃないことに、改めて気づいた。
- 学校に行くのも命がけてことを知った。
- 子供も仕事をしたり、兄弟の世話をしなくてはいけなくて大変だと思った。
- 命がけて学校に行く子どもたちを見て、私だったら、絶対に嫌だし、大変だと思った。
- 学校に行けない子どもや勉強は女の子にはいらんと言われるアフリカと比べて、とっても私たちは、めぐまれているんだなと思った。



- 雨が降ると、学校が休みになって、雨の中で畑仕事をするとかすごいと思った。

- 片道に何時間もかかっているのに学校に行っていたり、日本とは全然違ってすごく驚いた。けど、小学校に94歳の人がいってもいじめず、逆に人気ものになるくらいなのはすごいと思った。



- 学校に行くのに、何時間もかかるのはすごく大変そうだなと思った。自分なら学校に行かないと思った。「ゾウに会ったらにげる」とかすごく危険だと思った。
- 草で作った学校は、すごいと思った。1人1人に机やイスとか教科書がないのは大変だと思った。

- 教育を受ける。ということは当たり前前のことじゃないんだなと思った。教育を受けないと生きるのに不便なことが多いんだなと思った。

- 私たちは、普通に学校に来て色々なことが勉強できているけど、世界には学校にすら行けないから文字なども勉強できずに生きている人もいるとわかった。

- 90歳まで字も書けずに数字も分からないのは大変なことだし、90歳を過ぎてから勉強した事はすごいと思った。

- 雨が降っただけで学校が壊れるなんて、日本じゃありえないことだし、何倍も苦労していることがわかった。

<識字を学習して>

- 字がわからないことは、ものすごく不便なのだとわかった。

- 日本では水が飲めることは普通だと思ってたが、世界では水を飲むことが、難しかったり大変なんだなと思った。

- 世界には沢山の人がいて、私たちのように学校に行ける事はすごいことで、今日聞いたアフリカの人々もいつか、私たちのような学校生活を送ってほしい。

- 小学校の時から「字」を習って、とてもふつうだと思っていたけれど改めて考えると大切なことなんだなと思った。

※ お話を聞いて、アフリカの子どもたちが、明るく熱心に勉強したり、学習したくて遠くても学校に通ったりしていることがわかりましたね。